


 書評

野村総一郎, 中村 純, 青木省三, 朝田 隆, 水野雅文 シリーズ編集

水野雅文 編

《精神科臨床エキスパート》

重症化させないための

精神疾患の診方と対応

樋口輝彦

国は「健康寿命の延伸」を健康日本 21 の目的の一つとし、さまざまな施策を展開している。健康長寿を実現するために最も大切なことは「病気の予防」であり「早期発見・早期治療」であろう。これは身体疾患だけでなく精神疾患にも当てはまる。病気の予防がいかに重要かについては、これまでも保健の観点からさまざまなメッセージが発信されてきた。しかし、メンタルヘルスの領域では、予防医学は概念的には受け入れられても、具体的に何をどうすれば予防につながるのか、早期発見に至るのか、その道筋が見えないところがあった。最近、早期介入をすることが病気の予後を改善すること、治療に至るまでの時間が短ければ短いほど治療効果が高いことなどに関するエビデンスが集積されてきたことから、漠然としていた「予防」が中身を伴って語られるようになってきた。

本書は以上のような今日的時代背景の中でまとめられた時宜にかなった書籍である。病気は突然始まるいわゆる急性の疾患(代表例は感染症)と、発症する前一定期間、前駆状態と呼ばれる非特異的な症状を示し、そのうちその疾患の本来の症状を呈する疾患に分かれるが、精神疾患の多くは後者に属する。この前駆状態は疾患特異的でないため、注意が向きにくく早期介入が困難であった。しかし、本書ではこの時期(前駆期)に焦点を絞り、これまで積み重ねられてきたエビデンスを総説することで早期介入のプロセスを明示した。

本書は4部で構成されている。すなわち、第1部「早期段階の主訴・症候の診方と鑑別」、第2部「疾患別の早期段階における徴候、治療、対応」、第

3部「精神科未受診例の早期発見と支援」、第4部「早期治療をめぐるトピックス」である。第1部は前駆状態の非特異的な症状の代表とも言うべき「不安」「抑うつ」「思考障害と減弱精神病症状」「不眠」「不登校とひきこもり」「希死念慮と自傷」を取り上げ、それぞれの臨床的位置付けと実際の診断・治療の流れが要領よくまとめられている。第2部は逆に疾患ごとの早期徴候、早期段階の治療がまとめられており、中でも臨床ケースの項は解説も含めて読むと早期徴候の内容がよく把握できる。第3部は医療の現場にまだ登場しない、学校や産業現場などに隠れている未受診例の早期発見と支援を扱っている。第4部は統合失調症の早期治療を指示するエビデンス、早期精神科治療の国際的ガイドラインの紹介、日本と海外の具体的な取り組みの紹介、早期治療における臨床倫理の問題、早期介入のリスクとベネフィット、将来の研究の方向性など多岐にわたるトピックスを扱うが、この本の神髄ともいえる内容で満たされている。

最後に編集を担当された水野雅文先生の序論の最後の言葉が大変重要と思われるので引用させていただく。

「早期介入の目的は健康人の医療化ではない。重症化させないアプローチをしっかりと身につけ、自信をもって早期段階の精神疾患に向き合いたい」。

(国立精神・神経医療研究センター理事長)

●B5 304 頁 2014 年 定価：本体 5,800 円＋税 医学書院刊